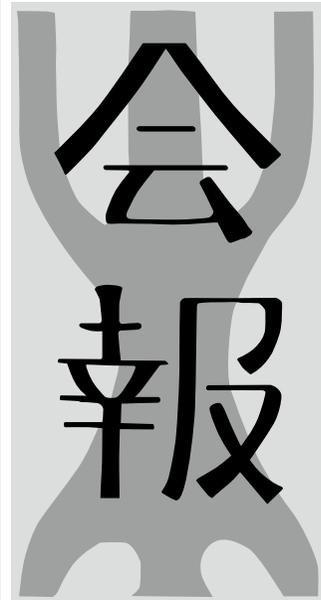


令和3年度 第63回 関東地区教員研修会

期日 令和3年11月13日(土)

会場 相模女子大学小学部

(オンライン形式)



日本私立小学校連合会

〒102-0073

東京都千代田区九段北4-2-25

私学会館別館6階

電話 03(3261)2934

関東地区教員研修会を終えて

関東地区私立小学校連合会

会長 齋藤 滋

令和二年度の三月から各部会で使用できるZoomアカウントを用意し、三〇〇名までのミーティングをど

第六十三回の関東地区教員研修会がメイン会場を相模女子大学小学部とし、さらに部会ごとに会場を分散するなどして、オンライン形式で行われました。新型コロナウイルス感染症対策として、昨年度の第六十二回研修会(会場は清泉小学校を予定)は残念ながら中止となってしまいました。この間多くの学校では子どもたちの学びの継続のために、ICT機器の導入を進め、オンラインでの学習にも力を入れてきました。その結果、先生方はオンラインでの様々な活動にも慣れてきており、今回の研修会では大きな混乱はありませんでした。関東地区の各部会の研修担当者ほとんどが神奈川県内の先生たちになっているという状況が長く続いていることには課題もありますが、神奈川県では今回の研修会をオンラインで行うことを意識して、

の部会でも行うことができるようになりました。これまでに多くの部会でミーティングや研修を重ねてきたことが今回の研修会の成功につながったと思います。

研修会は一昨年と同様に、午前(七部会)、午後(九部会)の二部制にしました。午前は三七六名・午後は三六四名の参加でしたが、一三八名は午前・午後の両方の研修に参加してくださいました。また、今回は会場である相模女子大学小学部の先生方が事前に授業動画を撮影してくださり、それを参加される先生方に視聴していただいた上で当日の研修の前に授業の振り返りの時間も作ってくださいました。部会研修だけでなく、オンラインでの公開授業も準備していただけたことに改めて感謝申し上げます。

コロナ禍での教育活動を進めて行

く中で、私たちはICT機器を使った新たな学びの環境を用意し、その過程で私たち自身もこれまでの学習指導を見直す機会を得ました。これまでの教育手法のよいところは大切にしつつ、変える必要があるところがあればそのこととしっかりと向き合うという謙虚な気持ちを忘れないようにしていくことが大切ではないでしょうか。

さて、令和四年度は新型コロナウイルス感染症が徐々に収束に向かっていることを期待しながら研修や様々な事業を計画していきます。半日研修会、夏季全国研修会、そして関東地区研修会は例年通り対面を実施する予定です。また、先生方の研修へのご意見、ご要望にも何らかの形でお応えできるようにしていきたいと考えています。

最後に、令和四年度の関東地区教員研修会は、湘南学園小学校を会場にして行うことが決定しております。今回と同様に、全体会を実施しない形での研修会の企画となると思えますが、よろしくお願いいたします。

国語部会

講演 「考えを構築するシンキングツール」

講師
関西大学総合情報学部
黒上晴夫先生

PISSAの研究によると日本は自由記述の白紙回答率が年々上昇している。「どうやって自分の考えを書き表せばいいのかわからないのではないか」その問題を解決するために、図解をもとに考え、自分の考えを可視化し表現する「シンキングツール」が生まれた。

そもそも自分の考えを表現するためには、考えの元になる情報を理解すること、どのような考えを作るかをイメージすること、考えを作る手順を知って伝えること、考えは人によって違うことを実感していること、考えを表明しても大丈夫だと思えること、考える場面が設定されることが重要である。

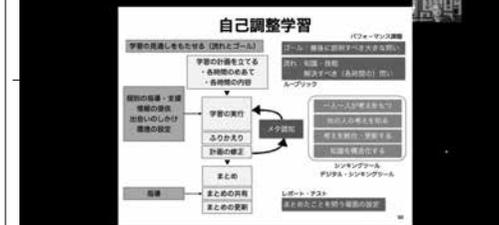
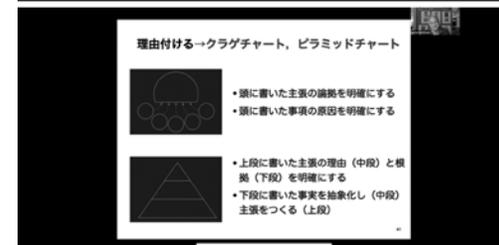
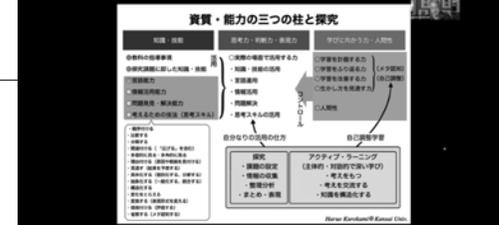
思考スキルには「順序付ける、比較する、分類する、関連付ける」といったものがあり、文部科学省が絞り込む前のものになる資料の中には「変化をとらえる、変換する、価値付ける、省察する」がある。これらの思考スキルは包含関係が存在する。

シンキングツールで情報を整理することにより共通点や相違点に気づき、考えの基をつくり、課題や問いを設定し、さらに考えを深めることができる。シンキングツールは計算用紙のようなものであり、そこから考えを作り出すことが重要である。情報を整理するだけのものではない。つまり、シンキングツールはアイデアや情報を集め、それらを一覧にし、考えを作り出すことができるツールである。

二年生の実践では、子どもがクラゲチャートを使って考えをまとめることで、全体で七〇〇文字の作文を書くことができた。文章の中にはクラゲチャートに書

いていないことも書かれていた。

桐蔭学園小学校ではThink-ing Tool Timeを設定し、シンキ



- ### 思考スキルとシンキングツール
- 順序付ける→ステップチャート
 - 比較する→ベン図、マトリクス
 - 分類する→フリーカード法 (中心語、マーカーなど)
 - 関連付ける→コトバのつながり
 - 広げる→イメージマップ (フロヒンク)
 - 多面的に見る・多角的に見る→Tチャート、K表でチャート
 - 理由付ける→クラゲチャート、ピラミッドチャート
 - 整理する→クラゲチャート (整理) / ピラミッドチャート (整理)
 - 具体化する→ピラミッドチャート (上から下)
 - 抽象化する→ピラミッドチャート (下から上)
 - 整理する (自分でも整理する) →ピラミッドチャート
 - 整理する (自分でも整理する) →クラゲチャート
 - 整理する (自分でも整理する) →マトリクス
 - 整理する (自分でも整理する) →フロヒンク
 - 整理する (自分でも整理する) →フリーカード法
 - 整理する (自分でも整理する) →コトバのつながり
 - 整理する (自分でも整理する) →イメージマップ
 - 整理する (自分でも整理する) →Tチャート
 - 整理する (自分でも整理する) →K表
 - 整理する (自分でも整理する) →クラゲチャート
 - 整理する (自分でも整理する) →ピラミッドチャート

ングツールについての学習を授業外で行っている(十五分間)。テーマは理解に時間がかからない身近なものから考え、考えを表明し、テーマを掘り下げ、シンキングツールの意味を確かめ、考えの作り方を指導し、考えの修正を行っている。

実際の授業では「一つの花」の作者が伝えたいことをクラゲチャートでまとめる学習を行った。学習前と学習後のクラゲチャートを比較したところ、子どもたちが自分の変容を客観的に見ることができたとの報告があった。

このように、シンキングツールを活用することで子どもの考えをさらに構築することができることが分かる。

学習指導要領の「知識・技能」を活用する場面を設定しなければ、「思考力・判断力・表現力」を育むことができない。また、「学びに向かう力・人間性」の学びに向かう力は、具体的に、「学習を計画する力・学習を振り返る力・学習を改善する力・生かし方を見通す力」つまり「メタ認知」・「自己調整」と言い換えることができる。これらは具体的に子どもが学習をコントロールする力であ

社会科部会

社会的な見方・考え方を働かせた優れた実践例とそのポイント

玉井 悠也(桐蔭学園)

社会科部会では、三校からの実践報告と国士館大学澤井陽介教授による講演を行った。

〇洗足学園小学校

四年生では洗足学園オリジナルテキストに基づいて学習しており、児童自ら調べたテキストにない情報も組み込んで都道府県のうち1ヶ所を児童が選び、「Keynote」で紹介スライドを作成して授業内で発表するという授業をしている。共同作業の場合は「Schoolwork」内で共同作業をしている。五年生で知識偏重を避けるため、

昔の人々の生活や思いを想像することとに重きを置いている。ロイロノートを使い、自分が縄文人になりきって当時の衣食住について調べ、「縄文日記」をつくる活動をしている。また、古墳時代学習後に「大王の墓にふさわしい埴輪を考えよう」というテーマで、ロイロノート・スケッチーズというアプリを使い「はにこん(埴輪コンテスト略)」を行った。

〇聖マリア小学校

六年生での歴史学習について、知識偏重でなく、様々な仕掛けで疑問の種を投げかけることで歴史上の人物へのイメージの深堀りができたと報告があった。

〇森村学園初等部

プログラミングソフト「まなっぷ」を使用して三年生で楽しむ授業をし、その後、登校路を安全に來られるように、一年生に教えてあげよう

という授業を行った事例が報告された。

〇講演 講師 国士館大学 澤井陽介教授

「社会的な見方・考え方を働かせた優れた実践例とそのポイント」というテーマで話していただいた。見方・考え方は学習指導要領の総則に書かれていて、深い学びの説明や知識を関連づけるといふ概念的な内

児童の反応

- モチベーションが飛躍的に向上
- 受身型授業では減多に挙手をしないような子が、上手に自己表現をする (多面的評価が可能)

容、考えを作りだす、問題解決をする、との記載があるが、これこそが「深い学び」の正体だと説明された。見方・考え方は学びのプロセスで、もつといえは子どもが身に着けるべきスキルである。それを通して学んでいくと結果として三つの資質能力が養われる。教材研究の際はアンサーを研究するのではなく、子どもがどう学ぶかを考え、子どもが見方考え方を働かせて学ぶかを問いで仕掛けられるように研究をするようにすべきだとおっしゃっていた。

単元を通して三つの能力のバランスを考えどんな資質を育てるのかを考え、それに即した評価を目標に対する妥当性をもった形で設定する。今回の学習指導要領で盛り込まれた「未来思考」の部分も重要で、関わったり、見たことにより自分たちの生活に課題があるということを考えさせる必要がある。

ICTは個別最適化の手立てとして使い、話し合い活動もいれ、そこに明確なゴールを設定する必要がある。また、これから大事なものは継続的な意欲であるので、しっかり課題を子どもたちに届けて、自分なりの予想や調べ活動を進める時間がある

算数部会

「主体的・対話的で深い学び」

植松 敬太(森村学園)

算数部では、筑波大学附属小学校の大野桂先生に、主体的・対話的で深い学びをテーマとし、二つの内容のビデオ講演をしていただいた。

一つ目が、四年生の面積の求め方より「めあてとまとめについて」、二つ目が、五年生の三角形の角・面積の求め方より「算数を子どもに返そう！委ねる・任せる算数授業への転換」といった題目である。

一つ目の講演は、面積の導入の話から始まった。教科書では二つの花壇を提示し、子どもが広さ比べをする方法を考えていく中で、1cmを見

出す展開が多い。大野先生の授業では、子どもに十八本の柵を渡し、動物を飼う囲いを作る導入から始まった。大野先生が授業のねらいを達成するために行った手立ての一つが、子どもの作った囲いの中で狭いものはどれか？と問うところである。狭いものを問うことによって、縦1cm横8cmメートルの長方形が子どもから出され、1cmが見えるきつかけになったと言う。また、出された長方形と違う形の物も黒板に出した時に、「広さが同じ」を説明するために、単位正方形を見出していく展開となった。ここで子どもたちと確認されたのが「めあて」である。大野先生の捉えている「めあて」とは、子どもが今困っていること、今考えたいことである。算数の授業を通して学級作りをしたいと考えている大野先生にとって、困っている子の困りもめあてになり得るということだった。

もちろん、その困りは教師にとつての授業で達成させたいねらいともリンクしなければいけない。今回の面積の授業におけるある子の困りは、形が違うのになぜ同じ広さなのかということであり、それを子どもたちと共有した後、広さが同じことを説

明していく展開であった。

二つ目の講演は、子どもの主体性を引き出す内容のお話だった。五年生の三角形の面積の導入で、一番初めに「どんな三角形なら三つの角の和が求められそう？」と子どもたちに聞いたところ、正三角形と答える児童がほとんどだったそうである。三つの角がわかっている三角形は他にあるか聞いてみたところ、三角定規の直角三角形が子どもから引き出された。このように、子どもの素直な見え方から授業を展開された。その後、他の直角三角形を話題に挙げると、他の物も一八〇度になるのではないかと考える子が多かったそうである。素直な見え方からスタートし、教師はそれに対して疑問形で返していくことで、自然と授業が展開されていくというお話であった。二等辺三角形も、図形の中に直角三角形を見出すことで一八〇度であると説明したり、角度をA・Bと記号で置いて式にして論理的に説明したりすることを経て、子どもたちが主体的に取り組んでいく姿を紹介していただいた。授業では、平行線の錯角や同位角、対頂角などを用いて説明する子どももあり、内容としては内

理科部会

生活意識を変えるための環境教育

石川 新(関東学院六浦)

角の和の話から、外角の和の話まで進んだ。授業の中で、説明を美しく感じたりよさを感じたりすると、それを自然と違う場面でも使いたくなる、このような姿が大切であることを教えていただいた。

理科部会では、今回、NPO法人アース・エコの代表を務める桑原清先生をお迎えし、講演をしていただいた。アース・エコは、地球温暖化防止などの地球環境保全活動に取り組むボランティア団体である。今回は、桑原先生に、普段行われている出前授業の様子を紹介していただいた。その後、授業後のつながりや、どのような授業展開をすれば、子どもたちに問題意識を持ってもらえるかについて協議した。

初めに、出前授業で実際に児童に向けて、温暖化と温室効果ガスにつ

り、自分の学習状況を振り返る時間を持つようになる場の設定が必要である。個別最適な学びと共同的な学びをICT機器の使用によって学習(思考)の相対化ができるようになるとお話しくださった。

いて考えさせる座学の紹介と、授業後に環境問題に取り組む意識を高める取り組みの実践として、省エネチェックシートというものが紹介された。

省エネチェックシートは、まず、普段の生活の様子をアンケート形式で回答してもらう。その中で、取り組んでいないものを、わたしのチャレンジ目標に設定し、カレンダー形式の省エネチェックシートに、目標が達成出来たら、色を塗る。このチェックシートは、一ヶ月分記録でき、授業後に数回取り組んで終わるのではなく、その目標を達成することが、習慣になることを目的としている。その後、出前授業で行っている、電力について五つの実験を動画で紹介していただいた。

実験①「電気の仕事」
手回し発電機を使って、電気は生活の中で光、動き、音、熱に変換され、使われていることを実験する。

実験②「電気を作ってみよう」
手回し発電機を使用して、白熱電球とLED電球の二つを光らせ、必要な電力の差を比べる。

実験③「電球の消費電力の違い」
ワットメーターという機器を使

い、同じ明るさにした、二つの電球の消費電力を比べる。

まず、家庭にある主な家電の消費電力に比べて、ドライヤーはどれくらい消費電力に差があるのかを実験する。

実験④「ドライヤーの消費電力」
まずは、家庭にある主な家電の消費電力に比べて、ドライヤーはどれくらい消費電力に差があるのかを実験する。

この実験はテレビの画面の明るさを変えることで、テレビの消費電力がどのように変わるかを調べる。

動画を観た後、この五つの実験について、Zoom内で、五つのブレイクアウトルームを設け、実験を見た感想などについて、情報交換を行った。その後、全体で話し合いの内容を発表・共有した。発表では、LED電球が省エネであることを可視化できる実験は、とても良いという意見や、実験の中で使用していたワットメーターは、実験結果に説得力を持たせることができ、良い機器なので学校の授業でも取り入れたいという内容が、話題に上がった。また、テレビの画面の明るさの実験では、部屋の照明を落としてテレビを観ることを薦める部分があり、環境問題と健康管理の両立を図ることが難しいと感じたという感想もあった。今

回、桑原先生の実験を見ることで、発電に必要なエネルギーを捻出することの難しさや、それにより地球に及ぼす影響を視覚的・体験的にとらえることができた。環境問題については、六年生の単元の中の短い扱いだが、その限られた時間で伝えるべきことが多いことを実感した。また、各校の先生方の指導方法も知ることができ、とても有意義な時間だった。



生活・総合部会

コロナ禍での体験活動を探る

宮 正典(横浜雙葉)

コロナ禍において、集団での移動や活動、外部の方との接触などは控えず、難しい状況になってしまいました。さらに、休校によるオンライン授業ともなれば、各家庭で材料や道具をそろえることの難しさや大きな音や振動を生じさせることができないといった問題によって、ますます体験活動は遠のいてしまいます。

このような状況であっても、子どもたちの体験活動をあきらめてしまふことがないようにと、先のような問題をクリアできる体験活動の一つとして、一般社団法人日本キッズヨガ協会代表理事のミナクシみよこ先生にご協力いただき、オンラインでのキッズヨガ体験を試みました。

前半は、次のようなお話をうかがいました。
キッズヨガは、たっぷり動く「動



としっかり休む「静」のめりはりのある、呼吸を意識した時間と休息の時間を含んだ安全で楽しい体操です。

一般的なヨガは、前屈、後屈、側屈、ねじり、バランスのように、四つの運動スキルのうちの平衡系と非移動系の要素で構成されています。キッズヨガでは、移動系と操作

系の要素も多く取り入れています。いろいろなやり方を実践する中でできてきた形が「ミナクシ式」と呼ばれるようになりました。大学の先生の監修も入り、体育指導要領にも沿ったものになっています。

ミナクシ式キッズヨガでは、運動能力や集中力の向上、情緒の安定、ADHDやIBSの症状の軽減など、様々な効果が見られています。後半は、体験でした。

大仏のポーズで挨拶。
ウォーミングアップは、腕は上下の繰り返し、足はパーグーの繰り返しと、ずれていく動き。先生が画面上で一人一人を確認して、アドバイスや励ましの言葉をかけてくださいました。

「汽車に乗って山に冒険に行く」というストーリーでは、体育座りで両腕を汽車のように動かします。上り坂は、両脚を浮かせて続けます。山に着いたら木になってゆれたり、その先はボートになって進んだり、いろいろな動物になったり…。

「カレーを作る」というストーリーでは、歌に合わせて次々といろいろな具材のポーズをとりました。このように、次から次へと色々な

か激しい動きが続きました。

最後は、仰向けになって、目を閉じて、ゆっくりと呼吸をしながら、先生の声に耳を傾けて、バターになって溶けたり、広がったり、しみ込んだりして、心と体を落ち着かせました。

大仏のポーズで挨拶。
想像以上の激しい動きに戸惑いもありましたが、清々しい表情で終えられました。

質疑応答なども含めて、オンラインでも十分に体験活動を行うことができました。内容にもよりますが、今後は、選択肢の一つに入れてもよいのではないのでしょうか。

音楽部会

音楽づくり はじめの一步

主体的、対話的で深い学びの実現に向けて

高原 可奈(横浜雙葉)

合唱曲の作曲者、そしてデジタル教材の分野でご活躍されている松長

誠先生をお招きし「音楽づくりははじめの一步」というテーマのもと、音楽づくりの基本や事例について講演していただきました。音楽づくりは、音楽科の教員にとって授業の展開の仕方をどのようにすればよいか、どのような力を身につけさせるのかなど悩みが多い活動です。

講演の始めにアイスブレイキングとして、音楽づくりをする上で重要な拍子感や即興感などを身につけられる常時活動について紹介していただきました。常時活動は、毎回の授業の短時間の中で音楽的能力・知識を積み重ねていく活動です。実践してみ、夢中になって取り組む

ことができ、楽しみながら音楽的な力を養える活動であると実感することができました。

また、音楽づくりを実施する上でのポイントをお話しいただきました。音楽づくりの学習の価値は、①思いや意図をもつことに鋭敏となるため、表現活動・鑑賞活動への波及効果があること、②正解、不正解を伴わず、児童の表現を肯定しやすいこと、③スモールステップで学習計画しやすいということであると

おっしゃっていました。そして、授業事例の紹介や指導要領のキーワードから音楽づくりの目的を読み解いていく中で、教師の役割の大きさを改めて確認することができまし

工部会

想像力と伝統文化に親しむ

三好 玲(湘南白百合学園)

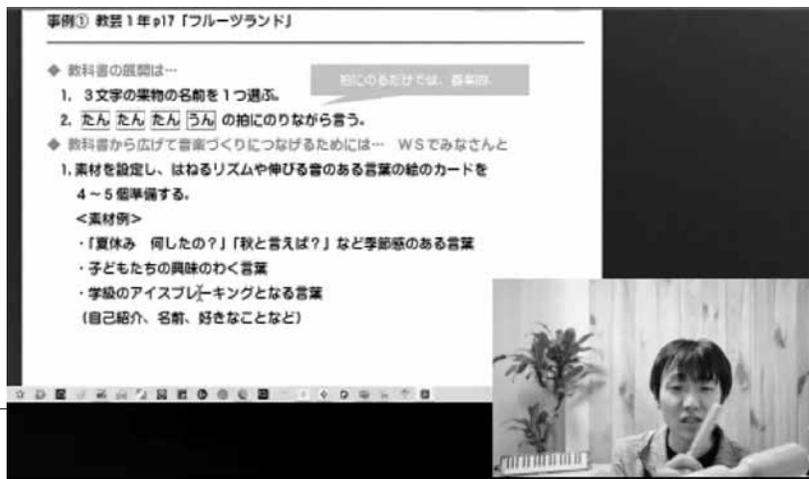
工部会では二部制で研修を実施しました。

第一部では、「授業研究『空想と立体』をつかむ授業づくり」と題し、各校の実践報告と意見交換の時間を持ちました。「空想」をテーマとした題材において、制作に取り掛かる際の発問や設定をどのように行うか、各校の様々な工夫を共有でき、大変有意義な時間となりました。

例えば、空想の島の近海に住む空想の魚を作る題材では、「魚」という現実的な物を発想を広げるきっかけとして、液体粘土で造形する題材では、児童にとって初めて触れる素材との関わりの中で模索しながら表現を探ることができるよう設定する工夫をご紹介いただきました。他にも色や素材に制約を設ける等、発想を広げる様々なアプローチを共有することができました。

第二部では、「文化財修理の仕事と伝統技術の継承について」と題し、株式会社半田九清堂の文化財修理技術者である下田純平氏にご講演いただきました。

下田氏が主に修理の対象としている掛軸は、絹や紙による多層構造となっています。一つの作品の装潢修理にあたり、多くの適した和紙を見分ける知識と、それを扱う技術とが



また、音楽づくりを実施する上でのポイントをお話しいただきました。音楽づくりの学習の価値は、①思いや意図をもつことに鋭敏となるため、表現活動・鑑賞活動への波及効果があること、②正解、不正解を伴わず、児童の表現を肯定しやすいこと、③スモールステップで学習計画しやすいということであると

おっしゃっていました。そして、授業事例の紹介や指導要領のキーワードから音楽づくりの目的を読み解いていく中で、教師の役割の大きさを改めて確認することができまし

大切なことは、五つの原則から外れないことを意識しながら、刺激した運動能力に焦点を当て、運動する条件を変化させることであると理解が深まりました。

最後に、ご紹介いただいた原理原則を踏まえ、具体的なトレーニング内容やアレンジの方法を実演していただきました。参加者は各自カメラの前でできる範囲の動きを真似する形式で実技講習会を行いました。トレーニングメニューは運動の実施人数と道具の有無で大きく四つに分類されてきました。一人でできる運動(道具なし)、複数人でできる運動(道具なし)、一人でできる運動(道具なし)、一人でできる運動(道具あり)、複数人でできる運動(道具あり)です。この四つに分類された動きとそのアレンジ方法をご指導いただきました。その他には、事前質問で多かった種目別の準備運動として、器械運動の導入に適切な前転を中心とした様々なバリエーションをご紹介します。

今回の研修会ではコーディネーショントレーニングを指導する上で重要な理論や考え方に基づいた実践をご教授いただきました。七つの能力や五つの原則を学ぶことで、ト

レーニングメニューに新しいバリエーションをもたらすための考え方について理解を深めることができました。また、運動を「愉しむ」ことの大切さが強調されていたことで、「できる・できない」に縛られず、子どもたちが運動すること自体の愉しさを味わうことや運動を創造することの愉しさを体験することの重要性を再認識することができた貴重な機会となりました。

学校保健部会

いま伝えたい性教育とは

中塚 唯月(精華)

今回は、思春期保健相談士であり元養護教諭の中谷奈央子先生をお招きして研修会を行いました。中谷先生は、小中高の児童生徒や教員・保護者など幅広い世代を対象に、授業や講演活動をされています。そのご経験もまじえながら、現状や事前質問をもとにした実践的なお話をしてくださいました。

まず、子ども達や性教育の現状について学びました。性の問題は、相談しにくく、かつ表面化しにくいものであり、いじめや不登校などの背景に性の問題が関連していることもあります。世界では、人権やジェンダー観や幸福を学ぶことを含めた包括的性教育が進められている一方で、日本の性教育は性や生殖に関する知識というイメージが強く、世界と比較しても消極的です。しかし、性教育とは健康教育・安全教育・人権教育であり、どのように自分や周りの心と体を大切にしながら健康に生きていくか、ということにつながる教育であるというお話から、性教育の本質を捉えなおすことができました。

次に、事前アンケートで寄せられた質問や悩みに対して丁寧にご説明いただきました。授業中に児童がふざけたり照れたりしても自然な反応であるから強く注意しすぎず、話をしながら引き込んでいくこと、何年

の基本的な理解と適切な対応についてである。池添先生の優しくもテンポよく、五十年間の実践と経験によって裏打ちされたお話は、本当に得るものが多く、またあつという間のひと時になった。

先生ご自身のお子様のお話から始まり、様々な事例に対して、先生の分析やお考えを話していただいた。発達障がいの可能性が児童の実際の教育現場では、文部科学省の調査において、五十％の割合で発達障がいの可能性があると言われているが、先生方の体感としてはいかがだろうか？実感だと、十％近く感じられるケースもあるのではないかと？

そのような子どもたちは、決して周りの友だちや保護者の方々、私たち教員をわざと困らせているのではなく、実際に困っているから、落ち着かなかつたり、暴れたり、迷惑をかけたりにしてしまう。しかし、時には、周りの人々の影響(外的要因)によって、困らされていることも少なくない。

聴覚過敏、話を聞かないのではなく、話を聞けない。聴覚過敏は、すごく優秀な

生がどんなことに興味を持つか考え、持続可能な授業内容にすること、児童の質問には怒らない・逃げない・嘘をつかない、ただしプライベートルな質問には答えなくて良いことなど、具体的な事例とともに教えてくださいました。また、指導上の注意

子どもにからだの話をする時...

「自分ってスゴイ!」「からだってスゴイ!」

と子どもが感じられるような言葉がけを!

例:汚いところ、恥ずかしいところ → **大切なところ**

点として、体や性のことをポジティブに捉えられるように、「恥ずかしいところ」ではなく「大切なところ」として表現を変えてみることで、児童の中に困っている当事者がいるかもしれないという視点を忘れてはならないこと等が挙げられました。

最後に、好ましくない出来事があったときの対応についてお話がありました。否定や正論を押し付けないように配慮しながらも、してはならないことをきちんと伝えることは必要であり、そのうえで、そうせざるを得ない子の気持ちに寄り添うことが大切であることを学びました。そして、「命を大切に」よりも「あなたが大切だ」と伝え続けることが大切であり、それは言葉や表情や態度等で普段から伝えることができる、という印象深いお話で締めくくられました。

このように、普段の児童との関わり方から具体的な性教育の実践内容まで伺うことができ、非常に実りの多い研修会となりました。学校は子ども達の「命」と毎日関わる場所であり、子ども達の個性や適性など「性」を受け止められる場所です。日頃の何気ないやりとりの中でも伝え

られることがあることを心にとめ、これからも児童と丁寧に関わっていきたいと思います。

学級経営部会

発達障がいの基本的な理解と適切な対応について

増子 裕二(聖ヨゼフ学園)

今回の関東地区教員研修会に向けて、事前に先生方に「学級経営における悩みや困りごと」を伺った。その中で、「学級経営の際に、発達障がいをもった(可能性のある)児童の対応に悩んでいる」という意見がいくつ上がった。そして、この度はご縁をいただき、京都にあるNPO法人福祉広場の理事長である池添素

先生にお話を伺うことができた。

は、「発達障がいは、



増子 裕二

補聴器を着けているイメージである。意識的に聞きたくなくても、全状況で教員の話だけを聞くのは、困難になる。また、特定の音を拾おうと意識して聞くことも、子どもにとっては大きな負担になる。結果、集中して授業を受けることができなかったり、周囲に敏感に反応してしまったりすることがある。

障がいは治らない。治すのではなく、どう軽減・克服していくのかが課題について、「どんな課題を解決したいのか?」「どのように解決したいのか?」それを見つけ出して、適切なサポートを行っていくことが必要である。

最後に、私たち教師が、「教え方の専門家」になることが一番重要である。子どもは個別に声かけしたら分かるけど、全体では分からないことが多い。その際に、丁寧に対応してあげることが大切である。今回の先生のお話を通して、

「子ども達のことを、まずは分かっ

そして印象的な言葉として、「発達障がいであろうがなかろうが、子どもに対して接することは変わらない。それは、子ども達の気持ちに寄り添うこと。」

「形に捉われずに、子どもに合わせた方法で。」
「無理しない。焦らない。こだわらない。」があげられる。
今一度、自分の関わっている子ども達に目を向けて、向き合い、じっくりと寄り添っていきたいと感じられる時間になった。池添素先生、この度はありがとうございます。

学校図書館部会

それゆけ！論理さん

石故 裕介(桐蔭学園)

国際基督教大学高等学校の国語科教諭、仲島ひとみ先生に、ご著書である「それゆけ！論理さん」(二〇一八 筑摩書房)についてのお話をいただきました。
まずはご自身のバックグラウンド

からお話しいただきました。高校では文学国語と論理国語に分かれていますが、実際には知識としては知っていても、実際にどのような状態なのかを知ることができたことは、大変興味深いお話でした。

また、論理とは何か、という部分については「なんとなく、みんなが漠然といいもの」として論理的、論理的思考力と言っていると思う。しかしそこで言われている論理的は、人によって違うものではないか。」という話から始まりました。

確かに論理的に話す、といってもそれがどの程度であるかは人によって異なるのだということが改めて感じられました。

それは同時に、物語を読むときにも前提が違えば受け取り方が異なることと同じであることがよくわかるお話でした。

例もたくさん出していただきました。例えば「天気が良いければピクニックに行こう」の場合は、天気の良い場合はピクニックに行くことは間違いない。しかし、天気が悪かった時にどうするかは何も決まっていな。そのため、天気が悪くても相手はもしかしたらピクニックに行くつ

もりかもしれない。二人の中に前提として「ピクニックは天気の悪い日には行かない」という前提条件が合致していて、初めて考えが一致するという話がありました。考えてみれば当たりまえのことなのですが、日



ごろそう思っ話していたかを考えさせられるお話でした。
知らず知らずのうちに子どもたちと話すときも自分の前提をもとに話していたかもしれないし、子どもたちの話を違った前提で聞いていたかもしれない。会話の基本を再確認する必要性を感じた内容でした。

また、こうしたことを踏まえて話を進めることが、自分と違う意見を持つ人と出会ったときに、敵対せずに済む、ひいては世界平和に繋がる、という話を仲島先生がされていたことも印象的でした。

正しい論理は世界の平和にも繋がっている、ということとは逆に言えば論理の乱れは平和の乱れに繋がる可能性もあるのかもしれない。自分の周りといった狭い範囲にしても世界全体という広い範囲にしても、平和のためにも論理という考え方は大切なのだと思えるお

話でした。

お話をいただいた後は、質疑応答の時間でした。ZOOMでの講演会だったのですが、たくさん質問が出て、当初の予定時間をオーバーするほどでした。仲島先生が一つ一つの質問に丁寧に答えてくださり、とても話しやすい雰囲気だったこともあるかと思えますし、論理的にお答えいただいたことが話しやすさにもつながっているのだらうとも思えました。

論理の大切さをしっかりと感じ取れた一日でした。

メディア教育部会

育てたい子ども達の力と

ICT機器が可能にする学び

横山 治樹(桐光学園)

OECD(経済協力開発機構)では二〇一五年からEducation2030プロジェクトを進めてきました。これは、二〇三〇年という近未来において子ども達に求められるコンピューテ

シーを検討し、育成方法を検討するということなのです。二〇三〇年と言えば、二〇一八年に小学校に入学した児童が、小中高の十二年間を過ごした先に待っている未来です。

二〇三〇年には、日本の社会はSociety5.0を迎えていると言われています。IoTやAI、ビッグデータなどの最新技術をあらゆる社会や産業に取り入れた社会だそうです。国連ではSDGsという持続可能な開発目標が掲げられ、二〇三〇年までに達成すべき目標を十七に分類して、目標値が設定されました。日本では、最新のテクノロジーを活用して、SDGsが掲げている「誰一人取り残されない社会」の実現を目指しています。

GIGAスクール構想の前倒しとともに、各学校ではICT機器の導入が進む一方、活用方法はまだまだ手探りな様子が見られます。子ども達が必要とする力を考え、学びを考えることがとても重要となります。

そこで、メディア教育部では、研修会を大きく二つに分けました。前半に、モノグサ株式会社のMonoxerを体験させていただきました。また、後半は、加藤学園暁秀初等学校の中

原悟先生よりロボットを利用したプログラミング教育を、森村学園初等部の齊藤翔太先生からはSDGsを題材としたCM制作を、それぞれ実践報告していただきました。

Monoxerは、知識の定着に焦点を絞ったアプリです。教員が定着を図りたい学習内容と期間を選択することで、AIを搭載したMonoxerが個別最適化を図り、生徒ごとに定着までの計画を用意してくれるものでした。使うほどに利用者の傾向がデータとして蓄えられます。これからの学習において、個別最適化は重要な点となり、Monoxerは一つの選択肢となる優れた教材だと感じました。

中原先生のプログラミング教育の実践では、とにかくロボットを動かす取り組みを重視していました。プログラムを組むとき、バグがあるとロボットは動きません。動かすためにはバグを見つけて、正しく修正する必要があります。また、トライ&エラーを繰り返してすぐに成功か失敗かを確認できることが、子ども達の学習にとってもよいと話されていました。また、AIの仕組みを学び、利用する取り組みも行っていまし

た。
齊藤先生の実践報告では、世界にある社会問題にはどのようなものがあるのかを学ぶことを通して、子ども達はSDGsへの理解を深めていきました。CM制作は必ずしも順調ではなかったようですが、初めて制作したCMには子どもたち一人ひとりの思いがしっかりと込められていました。
二〇三〇年に大人になる子どもたちはSociety5.0の社会を作り支えていくために、ICT機器を活用する力を持った人材となる必要があります。ICT機器の使い方を知っていること、思い通りに活用できることや表現できることは違います。だからこそ経験を積む必要があります。
二〇三〇年に生きる子ども達に、どのような力が必要と考え、何を学ばせるのでしょうか。学校ごとにEducation2030を考えたとき、ICT機器の活用方針が見えてくるように感じます。そして、今回の研修会を通して一つの道筋を見つけたように感じました。

外国語部会

絵本の翻訳の持つ特性を活かした英語教育実践デザイン

九里 有子(関東学院六浦)

外国語部会では、東京学芸大学大学院生・啓明学園初等学校の今井麻紀先生に「絵本の翻訳の持つ特性を活かした英語教育実践デザイン」について提案していただきました。

今井先生は「原作と翻訳を比べてみて、はじめてみえてくること(比較)」をテーマとし、「絵本の原作と翻訳を比較することを通して、思考力やものの見方を育成する英語教育」について研究されています。

Leo Lionni原作の絵本little blue and little yellow「あおくんときいろちゃん」の中で「Happily they hugged each other and hugged each other until they were green.」という場面があります。読み手の自分であれば、その場面の英語をどう日本語に訳すことができるのか、また、「Swimmy」[スイミー]

など他の文学(絵本)を教材としてどのような実践が展開できるのか、国語科との関連なども合わせて考えることができました。

◆一回目のグループディスカッションテーマ
「自己紹介」と「文学(絵本)を教材として使っているのか」、「どのように授業の中で実践しているのか」について

◇提案：日本語に翻訳するとしたらどう訳す？

◆二回目のグループディスカッションテーマ
little blue and little yellow「あおくんときいろちゃん」の指定された三ページの日本語訳で「自分の訳と藤田圭雄(一九六七日本語版)の訳にどんな違いがあるのか」、「藤田の訳の意図と自分の訳の意図」、そして「藤田の翻訳と自分の訳にはそれぞれどんな価値観が影響しているのか」について

◇提案：どの場面を表紙として選んだ実践デザイン

ぶ？

◆三回目のグループディスカッションテーマ
「あなたならSwimmyのどの場面を表紙にしますか」、「その絵を表紙として選んだ理由」について

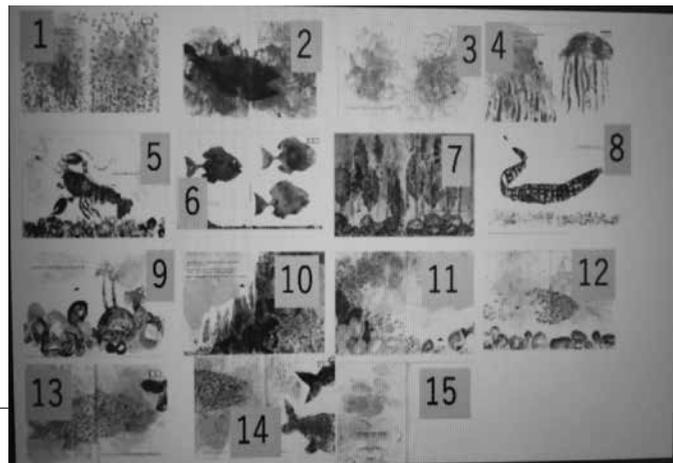
◆四回目のグループディスカッションテーマ
「なぜ国によって表紙やタイトルのつけ方が違うのか」、「その違いを生む要因」について

「なぜ国によって表紙やタイトルのつけ方が違うのか」、「その違いを生む要因」について

◎絵本Swimmy「スイミー」を用いた実践報告(小学生対象と大学生対象)

「比較」することで見えてくることは、文学の違いに気づき、その背景にある意図や価値観を考えるきっかけになること、原作者の視点と翻訳者の視点はイコールではなく異なる文化から成り立っていること、原作にはないことが翻訳に加味されていること、翻訳で加味されていることが子どもたちに与える影響が大きいことなどが分かってきました。

今回の研修会では、対面ではなくオンライン研修となりましたが、オンラインだからこそできるZOOMのブレイクアウトルーム



どの場面を表紙として選ぶ？

が子どもたちに与える影響が大きいことなどが分かってきました。今回の研修会では、対面ではなくオンライン研修となりましたが、オンラインだからこそできるZOOMのブレイクアウトルーム

を使い、少人数グループディスカッションなどの活動を複数回入れ、先生活方と活発に意見を交換することができました。コロナ禍においても教員の学びを止めず、多くの先生方のご協力、ご参加をいただき、実り多い研修ができたことを感謝し、ここに報告致します。

学校劇部会

心でつながる表現活動

オンラインを利用した表現遊び実践

坂田 道則(相模女子大学)

今回は、三人の先生をファシリテーターに、表現活動の実践を行った。

最初は私が担当した。まずは参加者の名前に番号をふり、その番号を元にペアでじゃんけんを行った。初めは普通に行い、慣れてきたらあいこの時は、画面越しにハイタッチをするというルールを加えた。緊張気味だった参加者の顔がだんだんとは

ぐれていく様子が見えた。その後、お互いがプレゼントをし合ったり、相手のストレッチをまねてみたりと、離れていても容易に行える活動でウォーミングアップをした。メインの活動は「伝えて！ジェスチャーゲーム」という表現活動だった。まずはステップ一。ペアの片方が顔を伏せ、残ったペアは、ある複合図形が描かれた紙を見てそれをジェスチャーのみで相手に伝えるというものだ。次は少しレベルアップ。複合図形は同じだが、それがそれぞれ何かの形を表す図形になっていた(今回は船とロケット)。やることは変わらないはずなのに、何かの形に見えるだけで参加者のジェスチャーが変わっていくのが面白かった。最後は、ファシリテーターがやってほしいことをジェスチャーだけで示し、それを当ててもらうという活動。先ほどまでとは異なり、全員が同じジェスチャーを見て答えるのだが、それぞれの受け取り方で答えが変わるのがポイントだった。

二つめの活動は青山学院大学系属浦和ルーテル学院小学校の石井先生による「紙コップ人形を使っての表現活動」だった。紙コップを切るだ

けで簡単に作れる紙コップ人形を用いて、擬人化して楽しむという活動だった。自分で設定したキャラクターをペアで紹介してもらったり、「それ、いいね！」の考えでペア同士やりたいことを考えていたりした。低学年に向けた非常に有意義な活動だった。

最後は、森村学園初等部の川窪先生による高学年向け実践「慣用句を使った表現活動」を体験した。まずは、なぜこの活動をやろうと思ったのか、活動の意義についての話があった。慣用句というと、暗記のイメージがあるが、そうではなく、「活きた学習」にするために、即興劇に取り入れて学んでいくということだった。参加者が体験する前に子どもたちの活動の様子を動画で見たが、どのペアもよく考えて場面作りをしていた。ほんの二、三十秒なのに、見ている引き込まれた。その後、実際に用意された慣用句に合う場面劇をペアで考え、発表していった。全チームの発表を見ることで、どのチームも短い時間で慣用句をわ



かりやすく伝えていた。これなら楽しいながら慣用句を覚えたり、新しい慣用句を調べたりする意欲に繋がると感じた。あっとい間の研修会だったが、非常に実りのあるものだったということが、参加者の振り返りからもうかがうことができた。

教頭会部会

公立ICT近況と 私学のロイロノート

辻 望(関東学院)

文科省から出されたGIGAスクール構想により、現在児童一人一台端末環境がスタンダードになりつつあります。いま、学びの場でICTをどう授業に活用していくかが問われています。今年の関東地区研修会では株式会社LioLioの教育ICTコンサルタントであり営業リーダーの澁谷洋平先生を講師にお招きし、参加者は実際にロイロノートを操作し活用について学びながら、公立小学校のICTを取り巻く近況やロイロノートの活用についてお話をうかがいました。

ロイロノートの操作では参加者が二〇五〇年にはどのような技術革新が起こっているか「将来残る仕事とは」などの問いに答え、それぞれの回答を共有しました。基本的なロイロノートの操作を学びながらも

先生は実は何よりも「考える」ということを参加者に課していたように感じます。

先生は「ロイロから見る全国の小学校事情」についてもお話をいただきました。文科省はMEXCBT(学びの保障オンラインシステム)で「いつでもどこでも学べる仕組みづくり」を推し進めている、こうなること、逆にいうと「学校でしかできないことはなんだろう」と改めて考える時代になっていく、とおっしゃいます。途中、公立小学校三校がICTを活用する様子についての授業動画をを見せていただきました。どの学校もICT機器を使いながら「発表し合う」という活動を取り入れていました。その点について先生は、将来人にも伝える能力はなくならないだろう、だからそのような活動を行っているのではないかとお考えを述べられました。

公立小学校の近況について、タブレットの使用状況には大きな差がある、一日の利用率にも差があり、またひとつの自治体の中でも大きく違う、ということでした。公立小学校の困りごととしては「通信が不安定」「フィルタがかかりすぎ」「アップ

デートされない」等があげられる、私立小学校ではICTを自由に使えるのでは、公立小学校との差別化要因としてその点をPRできるのではないかとお話をいただきました。

最後にこれからの私立小学校に想いを寄せてお話をいただきました。私立の小学校では学校内で「育てたい児童像」を共有していくことができるだろう、その上で建学の精神に立ち、教員全体が同じ方向を向いて進んでいくことができるのではないかとお話をいただきました。

最後はこれからの私立小学校に想いを寄せてお話をいただきました。私立の小学校では学校内で「育てたい児童像」を共有していくことができるだろう、その上で建学の精神に立ち、教員全体が同じ方向を向いて進んでいくことができるのではないかとお話をいただきました。

その後、加藤学園曉秀初等学校の佐藤誠一先生、東海大学付属静岡翔洋小学校の石井良先生、さとえ学園



小学校の山中昭岳先生からそれぞれの学校の端末導入についての実践事例が紹介され、参加者がブレイクルームに分かれて分かち合いのときを持ちました。

学校紹介

毎日会いたい友達がいる 毎日受けたい授業がある

相模女子大学小学部
校長 川原田 康文

相模女子大学小学部は、昭和二十六年に開校し、今年で開校七十年を迎えました。母体である相模女子大学の歴史も長く、日本で四番目に古い女子大学です。終戦後、都内から神奈川県相模原市に移転し、幼稚園から大学院まで同じキャンパスにある総合学園として実績を積み重ねてきました。

私たち相模女子大学小学部は、「毎日会いたい友達がいる、毎日受けたい授業がある」をスクールコンセプトに据えて、子どもたちのコミュニケーション力と豊かな学びを育むことを大切に、教育活動を展開しています。



毎日会いたい友達がいる

コミュニケーション力の育成に向けて、一学級二十七名から二十八名で学年三クラスの少人数学級編制をとっています。この体制により、きめ細かく一人ひとりに指導が行き届く学びの場となっています。週に一時間の「つなぐ手」の時間は、コミュニケーションスキルの育成を目的に、他者理解やチームワークの大切さを感じ取れるように工夫されています。その他にも、異学年交流を大切にし、六年生をリーダーにした縦割班を編制して毎日の清掃活動を行っています。学校行事でも、異学年で

の活動をできるだけ多く取り入れていきます。これらの行事や活動を通して、学年を越えた児童の豊かな人間関係を醸成させることができます。

毎日受けたい授業がある

豊かな学力を育むために、教師が授業づくりについて研鑽することはとても大切なことです。相模女子大学小学部では、教員研修を大切にしています。そのため、研修会や研究授業を数多く行い、意見交換をしながら、授業のあり方について考え、学ぶ機会を増やしています。

また、これからの児童に求められる力について検討を加えながら、教育課程を編制しています。一つ目として、論理的思考を育むためにプログラミング科の一つの教科として独立させたことです。専門の教員を配置し、レゴで、ロボットを作ったりプログラミングする教育活動は、児童にも保護者にも高く評価されています。二つ目として四年生以上でオンライン英会話の時間を設けました。児童は、英語を使ってコミュニケーションをとる楽しさを感じています。三つ目として、児童一人ひとりの学習や生活の中から生まれた



疑問や興味関心について、長い期間深く探究することのできる学習探究の時間」を設けました。四年生以上で、週一時間、さらに、学期末には集中して取り組める探究週間を設け、児童が探究活動に取り組んでいます。四つ目として、全児童一人一台のiPadを使用し、クリエイティブな学び、協働的な学びを行っています。「いつでもどこでも」を合言葉に、積極的に授業や学級活動、探究などの場面で、アプリ等を使って表現力等のスキルを高めています。相模女子大学小学部は、子どもたちの笑顔を大切にしたい学校です。



会において、今回の全国幹部研修会は一日で実施、八十周年記念式典も式典のみとし、祝賀会は中止、そして対面とオンラインのハイブリッド開催が決められました。全国から責任ある皆様に東京に集まっていたくださるには、苦渋の決断でした。当日は、対面参加五二名、オンライン参加一三名の計六五名の皆

様に参加をいただきました。開会式では、直前まで国会議員との私学振興懇談会にご対応いただいた重永会長の挨拶、引き続き歌舞伎役者、俳優の中村勘九郎氏による「講演Ⅰ」。昼食は、学校での昼食と同じように黙食でいただきました。午後は、千葉工業大学未来ロボット技術研究センター所長、古田貴之氏による「講演Ⅱ」が行われました。それぞれの講演内容については、担当者からの報告をお読みください。閉会式では、次年度開催の西日本地区、森田理事から、次年度も多くの方々にご参加いただくよう呼びかけがされました。

感染者が落ち着いてきたとはいえ、コロナ禍で開催できたことは、ご参加いただいた皆様のご協力のお陰と心よりお礼を申し上げます。また、共に担っていただいた実行委員の先生方、陰となり大きな力で支えていただいた児玉事務局長、事務局の皆様へ感謝を申し上げます。

南部 浩士(田園調布雙葉)

【講演Ⅰ】
講演 「中村屋の芸と教育
― 伝え受け継ぐもの ―」

講師 歌舞伎役者・俳優 中村 勘九郎氏

進行 フリーアナウンサー 吉崎 典子氏

本講演は、元フジテレビアナウンサーであり、同局で三十年以上続くドキュメンタリー番組「密着！中村屋ファミリー」の監修を務め、歌舞伎のイヤホンガイド解説者でもある吉崎氏が次の七つのテーマをもとに、対談形式で進められた。

- ・中村屋の芸と伝統
- ・いつ歌舞伎役者になろうと決めたのか
- ・父、十八代目中村勘三郎の教育
- ・私立小学校生活で得たもの
- ・学校教育に望むこと
- ・二人の息子を持つ父として
- ・今後伝えていきたいこと

この流れに沿って研修報告を行うこととする。

歌舞伎の発祥は、今からおよそ四百年前。狂言を習っていた初代中村勘三郎が出雲阿国と出会い、共に京都の四条河原から江戸に打って出て、日本橋の近くに猿若座という芝居小屋を立て公演を始めたことから、初代勘三郎は江戸歌舞伎の開祖

日私小連結成 80 周年記念
令和3年度 第66回
全国幹部研修会

期日 令和3年12月2日(木)
会場 アルカディア市ヶ谷(東京都)
(対面とオンラインのハイブリッド形式)

令和三年(二〇二一年)二月二日。第六六回全国幹部研修会がアルカディア市ヶ谷(私学会館)で開催されました。今年の全国幹部研修会は、「日本私立小学校連合会、結成八十周年記念」の冠がついた研修会でした。

令和二年(二〇二〇年)七月十日、定例・常任理事会後に初めての準備委員会が招集され、この第一回目から結成八十周年記念事業実行委員会も同時に開催されていきました。研修会当日の打ち合わせと事後の反省会も含めると、都合一三回の準備委員会となりました。ほとんどの準備委員会は、常任理事会後に行われたので、終了が二〇時を過ぎることも多々ありました。

一番の悩みは、なんとと言っても新型コロナウイルスでした。令和二年の全国幹部研修会はコロナ禍のた

全国幹部研修会を終えて
東京私立初等学校協会副会長
第六六回全国幹部研修会実行委員長
中村 貞雄

心配はありました。しかし、例年のように二泊三日の研修を前提として動き出さないと始まらないのも事実でした。

幸いにも、第一回目の緊急事態宣言が解除され、GOTOトラベルも始まり、明るいきざしもありました。その中で、八十周年記念誌のテーマが、「未来につなぐ足跡」(現在・過去・未来)と決まったので、全国幹部研修会も同じテーマをそのままいただくこととし、三日間の研修内容について講師やフィールドワーク等の詳細を決めていきました。

その間、二回目、三回目の緊急事態宣言が発出され、最も厳しかったのが四回目の令和三年(二〇二一年)七月一二日、九月三〇日の緊急事態宣言でした。八月には、一日の都内の新規感染者数が五千人を超える日が続き、ついに九月九日の常任理事

めに中止となりましたが、一年以上のこと、感染状況もわからないままスタートすることへの不安と

といわれている。初代勘三郎の屋号は柏屋であったが、勘九郎氏の祖父がその名を探し出し、十七代目勘三郎となり、中村屋の屋号が始まった。十七代目勘三郎氏は、最も多くの役を演じたことで有名であり、ギネスにも載っている。

歌舞伎には、先人が作った型・技が口伝えではあるが残っていて、それを継承し、さらに追及していくことが大切なことである。しかし、型の中で心が動かなければいけないと、常日頃から教えられた。しかし、型ができていないのに、心が先行して違うことをやってしまうことは「型破り」ではなく、型をきちんと習得してから違う試みをするのが「型破り」であり、そうでなければ「形無し」であるという。

私達、私学にも、それぞれの学校の型というものがある。その型をしっかりと継承していくことが大事なことであり、同時に、そこに心、教育理念、教育への強い志がきちんと込められていなければ、私学としての存在意義も存続もないと感じた。また、「型破り」という言葉から、時代に即した新たな教育活動も、それぞれの学校の型の上に構築されて

いかなければ、単なる「形無し」の行動になってしまう危険があると教えられた気がした。

初代中村屋である勘三郎氏は八百以上の役を演じているが、それぞれの役に中村屋のエキスが入っていると話された。それは教育現場で求められることと同じであろう。種々の授業、行事、日々の子どもとの関わりの中に、各学校のエキスが含まれていることが望ましい。

勘九郎氏が、歌舞伎役者になろうと思われたのは、生活の中に芝居の音、稽古している声があり、祖父や父を見ているうちに自然に憧れを抱いたからだろう。

学校での子ども達の育ちにも憧れは大切な要素であろう。友達や上級生、先生の姿に憧れを抱くことができれば、自然と子ども達はその姿に倣うようになる。学校には、多くの人とふれあう時と場がある。その場が、誰かのよさを認め、憧れ、自分もそうなりたいと願うとき、その空気が見えないカリキュラムとなって子ども達を導いていく。そのような風土作りが大切であると改めて感じた。

また、勘九郎氏から、今まで歌舞



伎役者を続けられているのは、選択の機会を与えられたからという話もあった。憧れて、なりたかった職業についていることは幸せなことであるが、やはり辛さや苦しさはある。しかし、自分がなりたい、やりたいと思った言葉・行動には、責任を取らなければいけない。好きだという気持ちがある以上突き進んで行かなければいけない。そう思えたのは、義務教育を終えた時点で、強制や無理強いではなく、歌舞伎役者をやるかやらないかの選択をさせてもらったからだということであった。

人間には確かに自由意志があり、それはとても大切なものである。しかし、何を選ぶか、そしてその選択にどう責任を持つかによって、自身を高めることもあれば、逆に滅びに向かうこともある。学校という場でも、選択の機会を与えることは、何を大切に生きていかうかというのを考え、学ぶ大切な機会となるが、それは、子ども達への信頼と選択を受け入れる覚悟と、どのような判断のものさしを与えているのかということとを、私達自身に問いかけるものでもあると、改めて感じた。

三郎氏は、日常生活のマナーに関して、とても厳しい方であったという。挨拶や返事、言葉遣い、目上の方に対する態度と共に、感謝の気持ちが持ち続けることを厳しく躰けられ、日常の一つひとつの所作には人間性が顕れ、役者としての匂いとなっていくと教えられたそう。

以前、ある研修会で訪れた鎌倉の禅宗の僧侶の方から、日常の小さな所作を丁寧に行うことから修行を始めると同ったことを思い出した。学校生活においても、日々を丁寧に生きることは大事なことであるが、先ずは私達教員がその手本となり、一人ひとりが気持ちのよい匂い、香りを醸し出すことが大切であろう。子ども達は、その心地よい空気を毎日吸うことで自然と育まれていく。よい香りのする教員集団でありたいと、改めて思った。

十八代目は芸に非常に厳しい方で叱られると非常に怖かったが、いいときには心から涙を流し、自分のことのように喜んで褒めてくれる、そんな姿から、芸に対する真剣さが伝わってきて、信頼して真剣に話が聞けるということであった。

それは、相手が子どもであろうと

しっかりと一人の役者として向き合っているからであろう。子どもの失敗や躓きを温かく包む寛容さも大事であるが、ひとりの人間として表面的ではなく、真剣に子どもと向き合い、大切なことを伝え、乗り越える壁となる厳しさも教員には必要である。厳しさと冷たさは違うことをきちんと肝に銘じ指導に当たりたい。

歌舞伎の世界では、屋号が違っても習いたいと思えば門をたたくと、培ってきた技や型を、心を開き、全てをさらけ出し教えてくれるそうだ。それゆえ、教えられる側は、自分の中でしっかりと消化し、身体の一つひとつの細胞にまで入れ込んでいく。そうして、今度は後輩や次の世代の子ども達に伝えていくという。だからこそ、今まで芸が繋がりが、伝承・継承というものがあると話された。

この姿勢は、研修における私達のあり方とともに、これから私学が長年に渡り存続していくために必要なことを、示唆していただいたと感じた。

勘九郎氏は、私学での学びの中で得たこととして、家庭ではできない

多くの「経験」、自分が役者としてではなく一人の人間として立ち返れる「友との出会い」、人とのよき繋がりを作る「話をきちんと聞く姿勢」を挙げられた。そして、総じて勉強だけでなく、人間性や人との絆の大切さを大らかに教え導いてくれたことに対する感謝を述べられた。今の学校教育に望むこととしては、自国の文化、芸能、伝統というものにふれる機会をもう少し増やしてほしいということであった。また、和楽器や日本語の美しさ、そのリズムの美しさも教えていただければという願いも持たれている。ご自身のお子様に対する芸の教えは、感覚的に伝えるほうがよいか、数学的に伝えるほうがよいか、褒めて伸びるタイプか、悔しい思いをして伸びるタイプか、それぞれの性格、特徴も見極めて、お稽古を付けているとのことであった。

最後に、歌舞伎においては、自分が目の前に何を想像して見ているかによって、観客に伝わるものも変わっていく、だから、想像力が非常に大切であり、様々な経験が想像力を高めていくというお話をしてくださった。また、芸の伝承にあたって

は、先輩からの教えはそのままだにきちんと自分の内に残し、自分で演じたときに感じたことや工夫もまたしっかりと覚えておく。そして、それぞれをきちんと次に伝えていく。それが繋げていくことであり、今後そのような繋がっていききたいとお話しくださった。

予定時間よりも若干早くに対談は終了したが、勘九郎氏退室後は、吉崎氏により、現在の歌舞伎を六つのカテゴリー(①純歌舞伎②義太夫狂言③松羽目物④落語をもとにしたもの⑤新歌舞伎⑥新作歌舞伎)に分けての説明、さらに、「大向こう」、「屋号と型」、初心者へのお勧め演目(「連獅子」)についてのお話があり、より歌舞伎への興味、関心が広がり、身近なものと感じられた。

講演内容と勘九郎氏のお話しなされる様子から、生活全てが芝居に繋がっており、中心に歌舞伎を置いて生きておられるのだと感じた。

私も、なりたくて教員になり、今もその仕事を続けさせていたが、受け止めるとともに、私学の教育を次の世代に繋げていく自身の働きを、もう一度見直すよきテーマを、たく

さんいただいた講演であった。

佐藤 有子(自由学園)

【講演Ⅰ】

講演 「想定を超える能力を発揮！

先端ロボットを利用した初等

部の科学教育」

講師

千葉工業大学未来ロボット

技術研究センター

所長 古田 貴之氏

ただいまご紹介にあずかりました古田と申します。本業は二児のパパで、副業として色々なロボットを作っています。

まず、最初にロボットとは何ぞや、私が何のために作っているかをお話しましょう。

【Halo IIの実演と試乗】

ロボット技術って、こういうモーターを動かす技術、つまりセンサーで感じて、頭脳を考えて、モーターを動かす。感じて、考えて、動かす技術なのです。我々は色々なことにこの技術を応用しています。我々の組織は学校法人千葉工業大学の法人直轄のセンターでメーカーが五年かかるものを一年で作る組織なのです。

次は人口知能を持ったロボットでご主人様と話し、ついてきて、電動で自動変形してバイクになるというものです。頭に三次元のレーザースンサーがついていて、走りながら地図ができます。

【人工知能ロボットで地図作成と

自動変形バイク実演】

タブレットの画面を見て頂くとわかるのですが、ロボットが見たものをリアルタイムでどんどん地図に作っていくんですね。次にこれを電動で自動変形してバイクにします。時速三十キロでビュンビュン動くものなのでテストドライバーに乗ってもらいましょう。ロボットが自分でモーターで左右に体を傾けるのでこんな高速ターンができるのです。

【原発ロボット実演】

次に出てくるのは、福島第一原発の事故、レベル七の原発の中で一階から五階まで動き回れた世界唯一のロボット。アメリカの軍も含めて我々のロボット以外にそれができるものは存在しないのです。四五度以上の斜面も登れるし、ニュースで原発の建屋の中が出てきた映像は、全部このロボットが撮っています。これは、うちの学校法人が無償貸

与で年間三億円ぐらい、五年間差上げ続けていました。原発ロボットって、一回投入したら汚染されるから二度と手元に帰ってこないんですよ。入った放しなんです。こんなものも社会貢献だと思って作ってました。

皆さん、ムーンショットプロジェクトってご存知ですか。今世紀最大の内閣府のプロジェクトと言われています。そこで、私はガバニング委員という審査員たちを審査する最高組織のメンバーの一人であります。世の中を変えるにあたって、技術を開発するだけではダメなんです。それをどう国のプロジェクトで民政化するか、世の中で実装するか、世の中に文化として土着するかというのがとても大事なことです。それが最近やっているとてもハードなことの一つなのです。

二〇三〇年までに年間二千億円かけるプロジェクトでロボットや人工知能が今まで入っていない分野。例えば食品とか物流とか色々なところに入れましょうというものです。

僕は、こういう社会設計関係をやっているのですが、そういう国の仕事からこういう教育まで、なんか



不連続な気がするんですね。国もも

に使用している。もうすぐすると、それは誰でも使えるような簡単なソフト

トウェアと機械が出てきます。その時に我々はそれをどう使うか、デザイン的思考と言われているのですが、ぼくはこれができる人間を作ることがこれからの日本ではとても大事なことがあるかと思ったりするので

話題を変えます。我々、未来ロボット技術研究センターは未来を作ることが仕事だと思っています。よく娘に「パパのお仕事はなあに」と言われて、「未来をつくること」と言ったら、昔は「かっこいい、パパ」って言われたのに、最近ほだめですね。未来をつくることは難しいんですよ。ただ、技術を開発するだけではだめだから製品も開発します。

でも、ある時気がついたので。子どもは未来の大人です。だから子どもの教育というのは未来を作ることなのだ。ぼくは一時、年間二〇〇回講演しました。ボランティアで中高を回っていました。やりたかったのはロボットの楽しさを伝えることでなく、物をつくることやれないと思っていることをやるチャレンジ精神とか、そんなことを伝え

たかった。実は、青山学院初等部の中村先生

と色々話した時に、一〇〇人の子ど

もがいたら一〇〇種類の違うボールを投げるんだ。これからは個性が重要なのだ。それぞれの子どもの成長を見て、その子どもたちが伸びるようなボールを投げようとおっしゃって下さった。ぼくはぐぐったときたのです。何という個性育成の魂だろう、何という多様性だろう。それを先駆けてやられていることにぐぐつと来てしまいました。青山学院初等部さんと連携しようと思いました。色々な先端の技術を持っている。この技術は技術で置いておいて、この心の部分を伝えたい。青山学院初等部さんと我々未来ロボット技術研究センターと一緒にS T E M教育

を始め八年になります。やっているのは、アマチュア無線クラブ。六年生の授業をここにいるスタッフたちも週一回半日かけてやっています。最初は提供したキットを使って障害物をよけまくるロボットをつくったのですが、そのうち自分たちでも操縦したいとか、オリジナルの何かあるものを作りたいとか言い出したのです。環境と素材を与える子どもたちがどんどん進化していくのにびっくりしました。

令和 4 年度
日私小連研修会日程表

(令和 4 年 1 月 19 日現在)

| 研修会 | 実施回数 | 集録番号 | 期 日 | 場 所 |
|----------|------|------|----------------------------|---------------------------|
| 西日本地区 | 64 | 430 | 令和 4 年 5 月 27 日 (金) | 光華小学校 (京都府) |
| 東京地区 | 59 | 431 | 令和 4 年 6 月 3 日 (金) | 暁星小学校 (東京都) |
| 全国夏季 | 66 | 432 | 令和 4 年 8 月 17 日～19 日 (水～金) | 新横浜プリンスホテル (神奈川県) |
| 全国教頭 | 46 | 433 | 令和 4 年 8 月 19・20 日 (金・土) | 新横浜プリンスホテル (神奈川県) (仮) |
| 北海道・東北地区 | 51 | 434 | 令和 4 年 10 月 7 日 (金) | 聖ドミニコ学院小学校 (宮城県) |
| 九州地区 | 47 | 435 | 令和 4 年 10 月 14・15 日 (金・土) | 長崎精道小学校 精道三川台小学校 (長崎県) |
| 関東地区 | 64 | 436 | 令和 4 年 11 月 5 日 (土) | 湘南学園小学校 (神奈川県) |
| 全国幹部 | 67 | 437 | 令和 4 年 12 月 1・2 日 (木・金) | ホテル日航奈良 (奈良県) |

日本私学教育研究所と共催の初任者等研修会

| 研 修 会 | 期 日 | 場 所 |
|---------------------------------------|--------------------------------|-----------------|
| 初任者研修地区研修会 | | |
| 小学校 (東日本地区) | 令和 4 年 7 月 25 日～7 月 27 日 (月～水) | アルカディア市ヶ谷 (東京都) |
| 小学校 (西日本地区) | 令和 4 年 7 月 27 日～7 月 29 日 (水～金) | 大阪ガーデンパレス (大阪府) |
| 若手教員 (初任者等) 全国研修会・私立学校中堅教員研修会 期日・場所未定 | | |

東日本地区は (東京地区と北海道・東北地区と関東地区)、西日本地区は (西日本地区と九州地区) を含む。

また、宿泊学習で三、六年生がいない間、一年生と二年生にいきなり、ドローンとタブレットを渡してプログラミングをさせます。四人でグループになって一つのをみんなで協力するのです。これが盛り上がる、盛り上がる。映像ではわかりませんが、順番があつて、みんなが一人一人が命令のプログラミングを足していくのです。時には何をやっているのかわからない子が出てくると他の子が教えてあげる。でも手は出さない。それでみんなドローン一個でぐるぐる回って一つのことをする。困難も乗り越える。子どもたちの可能性や恐るべし。

皆様は鉄腕アトムをご存じの世代ですよ。ぼくは、幼少期二歳から八歳までインドにおいて、時間がそこで固まっています。アトムはすごい。あの博士たちがすごい。あの博士になろうと思ってきた。大きくなったから巨大ロボットをつくって世界制覇しよう。そして、日本に帰ってその心だけで日本工業規格の難しい本を図書館で集めて、色々なロボットを作っていたのだけれど、中学生で進行性の筋ジストロフィーで下半身

麻痺になって一年間入院しました。その時に私は思ったのですよ。ロボット技術を世の中に残して死にたい。色々なロボット技術を作つて、皆が心も含めてバリアフリーになれるような社会を实装したいなと思ったのでした。

STEM教育って文系的な世の中を想像しつつ、世の中を論理的に組み立てる境界線だと思つたのです。それをみんなで力を合わせてやるというのが重要な感じがするのです。そこがこれからの日本の未来につながる一つの力かなと思つたりするのです。

ここで、大人の話をしましょう。日本を代表するとても有名な企業の人事部長さんから秘密で聞いた採用基準です。どれだけ専門性が重要かと思つたら、専門性四〇パーセント、人間性六〇パーセントです。性格的な誠実さ、話していることがぶれないか、矛盾がないか、あとチャレンジ精神、次にチームワークです。びっくりしました。技術的なことと言ふならばと続けられたのが、どんなプログラミングのスキルかと思つたら、新しいツールに手を出すことに抵抗がないかなのです。プログラ

ミングのスキルはなくてもいいと断言していたのにさらにびっくりしました。今、こういう人間が求められているというのはなるほどなと思つたんです。

世の中は変革の時期です。僕の大のポリシーは、世の中借り物、体も物もレンタル品でやがて土にかえる、なくなる。だから僕は思うのですけれども、この借り物の僕の体とか物を使って何か世の中に残して去つていこうかと思つたのです。ガウディのサグラダ・ファミリアがよきよき伸びているようにこれをやり遂げたというものを残したい、その心をインストールしたいと思つたのです。

小学校四年生の時にすべての授業をボイコットしたそのきっかけについて話します。「水の中でスポンジは浮く、石は沈む。なぜか。」という宿題が出た。わくわくして図書館に通つて勉強した。スポンジは水よりも軽いから浮く。石は水よりも重いから沈む。そうではない。その奥底に原理があるはずだと、これがわかれば僕の夢の巨大ロボットは空を飛ぶと。わくわくして一週間図書館に通つて万有引力の法則まで含めて文

献を読みましたが、結局わからなかった。正解は「石は水より重いから。」で、わからなかった人と聞かれて手を挙げた僕は、宿題をやる気がなかったとみなされ、廊下に立たされた、学校で初めて泣いた。

ですから、皆さん小学校で未来をつくるのに大事だと僕は思うのです。ぜひ、小学校のみんながお互いを認め合つて、みんな協力できるようなそんな企画をつくりつつ、認め合う社会になるといいなと思つながら日々やっています。僕は色々な人間が色々なところに散らばつて、ネットワークでつながつて、みんな手と手を取り合うことが素晴らしいと思つた。皆さんで楽しいことができると思つた。ご清聴ありがとうございました。

【古田先生はロボットで未来をつくる。私たちは、形にはならないけれども、その未来をつくる子どもたちを育てる。褒められるためでもなく、認められるためでもなく、未来のために、私たちは仕事をしたいと改め

2020年代の教育宣言

2020年代、私たちは多くの節目を迎えます。学制施行から150年。「大正新教育・八大教育主張講演会」から100年。私立学校振興助成法公布から50年。殊に1941年、国民学校令に合わせた私立小学校廃止の動きから「初等学校」の灯を守り、日本私立小学校連合会が産声をあげて80年となります。これらの節目において常に私立小学校は存在感を示してきました。この歴史に誇りをいただき「一年樹穀、十年樹木、百年樹人」と言った古人にならい、私たちは新たな百年に向けて人を育てる営みを続けます。

2020年代は、人工知能(AI)の想像もつかない発達等によって劇的な社会変革を迎えると言われます。しかし、この潮流の中だからこそ、より人間らしく生きることを疎かにしない心と学力を育てる教育が私立小学校に求められています。

そのために、私たちは、

- 一、それぞれの建学の精神に則り多様な特長をもつ学校群として、伝統を重んじつつ、自由と人権、児童一人一人の個性を尊びます。
- 一、児童愛をかたときも離さず、児童の内なる可能性を引き出す方法を実践・探求します。
- 一、未来を切り拓く資質と心豊かな人間性を育成します。
- 一、真の世界平和と持続可能な環境の維持をめざして、広い視野をもって考え、共感する心や他者尊重の心を育みます。

私たちは、新たな時代に向けて私学人としての自覚を持ち、お互いに磨き合い、我が国初等教育の新たな創造をめざすことをここに宣言します。

2020(令和2)年6月12日

日本私立小学校連合会